
子供に関する定点調査 「とうきょう こども アンケート」

2025年調査 報告書概要

2025年11月6日

東京都子供政策連携室

調査の概要

01 目的

- ✓ 本調査は、都内に居住する子供たちとその保護者の方々の日頃の暮らしや悩み、困りごとについて、福祉や教育など、従来の行政分野の枠組みにとらわれることなく子供たちに関する実態や意識の変化を把握し、今後の子供政策を検討するために、2023年度から継続して実施。
- ✓ 単年の結果だけでなく経年の変化も分析し、より強固なエビデンスに基づいた実効性のある政策の推進につなげていく。

02 実施方法



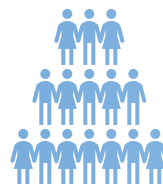
調査地域

- ・ 東京都全域



調査対象・標本サイズ

- ・ 小学3年生、小学5年生、中学2年生、17歳の子供とその保護者、並びに3歳児の保護者
- ・ 10,500世帯
(計19,500人)



抽出方法

- ・ 住民基本台帳に基づく層化二段無作為抽出法



調査方法

- ・ 郵送法（郵送配布・郵送回収、WEB（インターネット）回答併用）



調査時期

- ・ 2025年5月7日（水）から5月31日（土）まで

調査の概要

03 回収結果

	 3歳	 小3		 小5		 中2		 17歳		 子供計	 保護者計	総計
対象者数	1,500	2,050		1,900		2,150		2,900		9,000	10,500	19,500
回収数	810	1,018	948	962	902	887	845	1,009	945	3,876	4,450	8,326
回収率	54.0%	49.7%	46.2%	50.6%	47.5%	41.3%	39.3%	34.8%	32.6%	43.1%	42.4%	42.7%

04 留意点

- ✓ 原則、設問・選択肢の表記及び条件分岐が同じ場合に、経年比較を行っている。
- ✓ 経年比較や男女の差の比較等については、比較の結果、5 %水準で有意かつ5ポイント以上差がついている箇所を中心に解説している。なお、11段階評価の設問の場合は、平均値で比較し、5 %水準で有意の箇所について解説している。

資料の見方

2025年調査の結果を記載
(単一回答のみ。クロス集計等は除く)

子供の調査結果は青色をベースに **子** と表示
保護者の調査結果は緑色をベースに **保** と表示

学校や職場の居心地

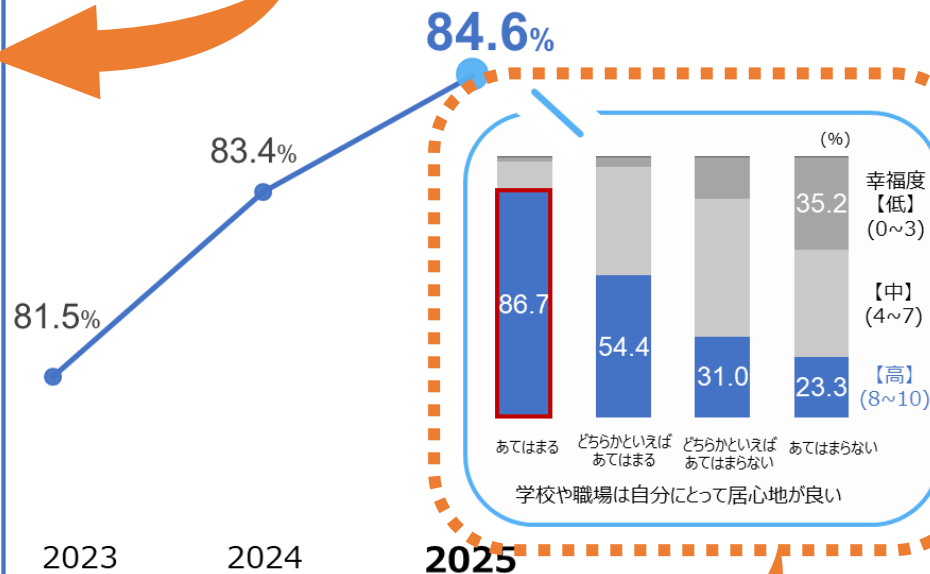
学校や職場は自分にとって居心地が良い(あてはまる+どちらかといえばあてはまる)と回答した子供は8割以上。居心地が良い(あてはまる)と回答した子供は、幸福度が高い傾向。(P.95,96)

全体
84.6%

(あてはまる+どちらかといえばあてはまるの割合)

子

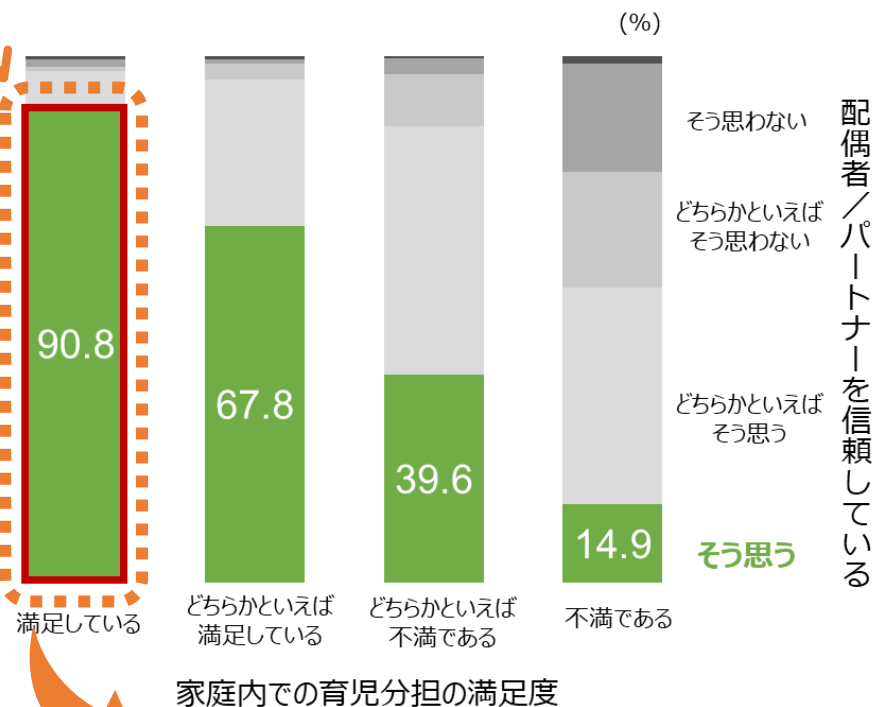
報告書本体の
ページ番号



「家庭内での育児分担の満足度」と「配偶者への信頼」との関係【保護者】

家庭内での育児分担に「満足している」と回答した保護者の約9割が、「配偶者/パートナーを信頼している(そう思う)」と回答。(P.502)

保



吹き出しの中には、2025年調査で
表題の設問と関連する特徴をグラフで記載

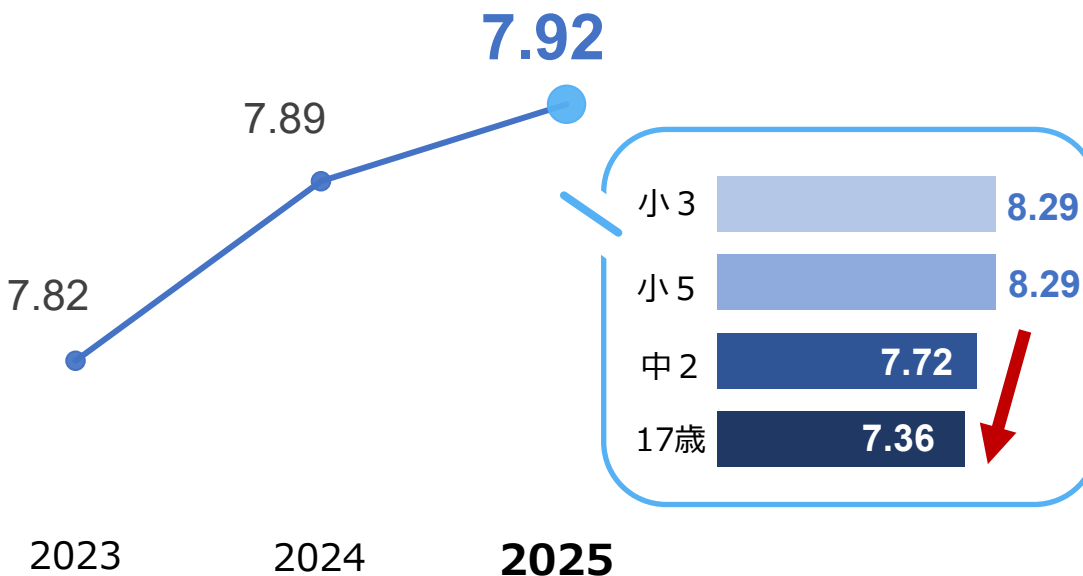
文章で言及している点を
赤枠で表示

■ 調査結果のポイント（１）

東京の子供は「今の自分は幸せだ」について肯定的に評価している割合は高いが学年が上がるにつれて減少傾向。17歳の4人に1人は精神的健康状態が低い。

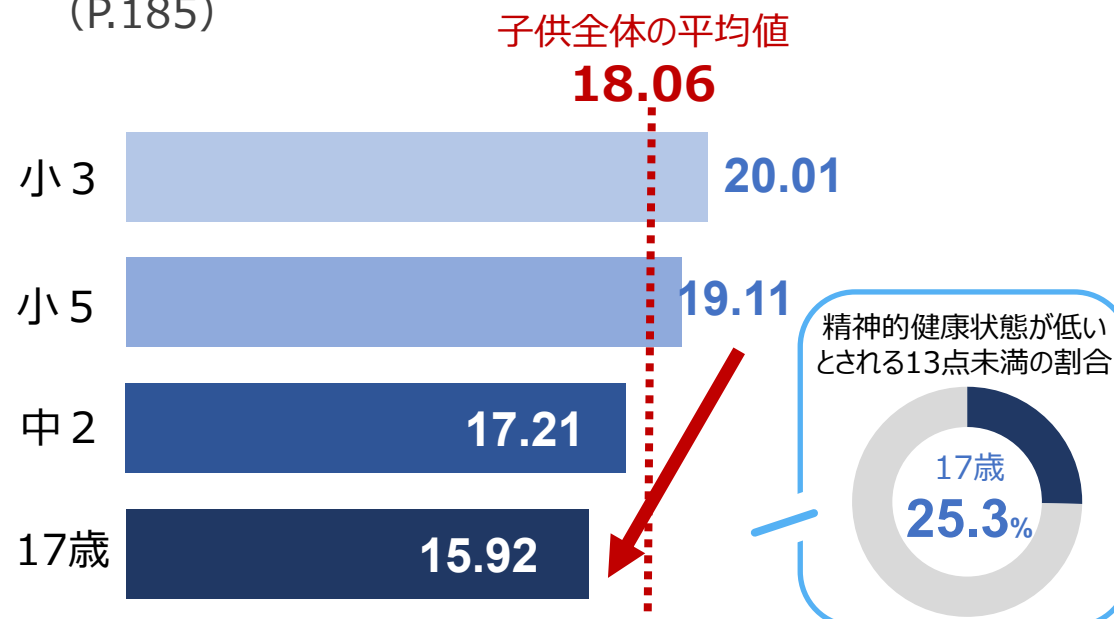
幸福度

「今の自分は幸せだ」について、子供全体の平均値は7.92。学年が上がるにつれて、低下傾向。（P.111）



精神的健康状態（WHO-5）

精神的健康状態について、子供全体の平均値は18.06。学年が上がるにつれて低下傾向。精神的健康状態が低いとされる13点未満は、17歳では4人に1人の割合。（P.185）



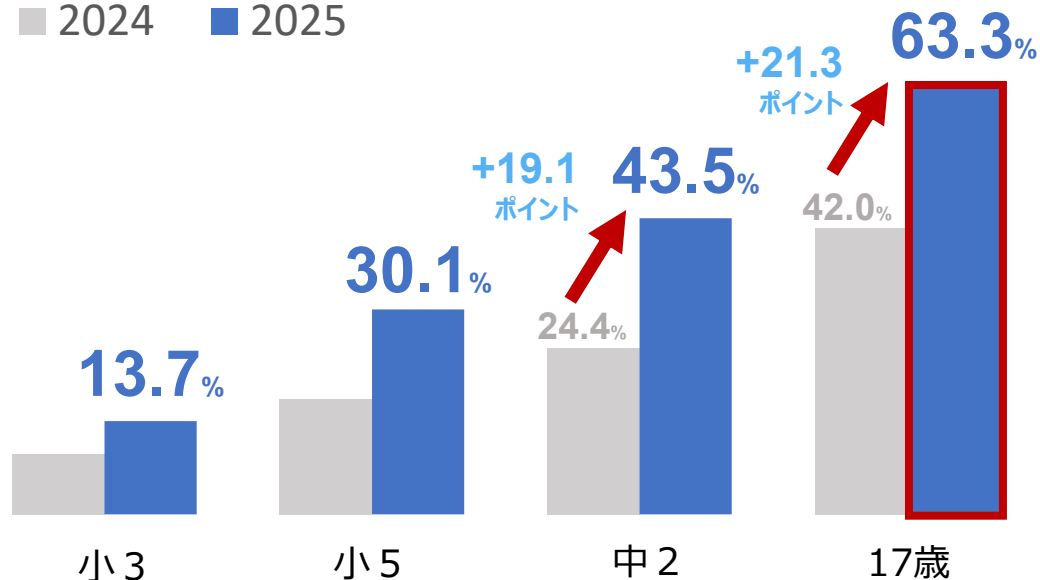
■ 調査結果のポイント（２）

2024年調査と比べ、子供の生成AIの使用経験が大幅に増加。保護者は子育てや教育の費用の悩みが軽減。

生成AIの使用経験

生成AIの使用経験は、いずれの学年でも前年と比べ、増加傾向。特に中2・17歳では約20ポイント増加。
(P.214)

■ 2024 ■ 2025



17歳

子

63.3%

対前年度比 +21.3

(よく使用している+ときどき使用しているの割合)

子育てや教育の費用の悩み【保護者】

子育てや教育の費用の悩みについて、はっきりと悩んでいる（そう思う）と回答した保護者は4割を下回り、前年と比べて、10ポイント以上減少。
(P.334)

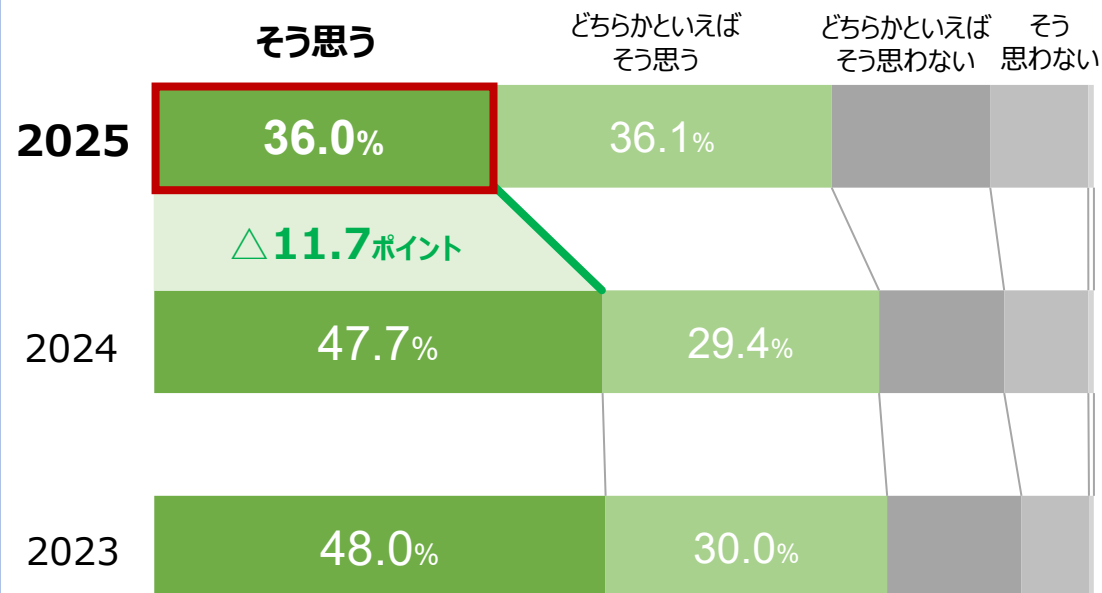
全体

保

36.0%

対前年度比 △11.7

(そう思うの割合)



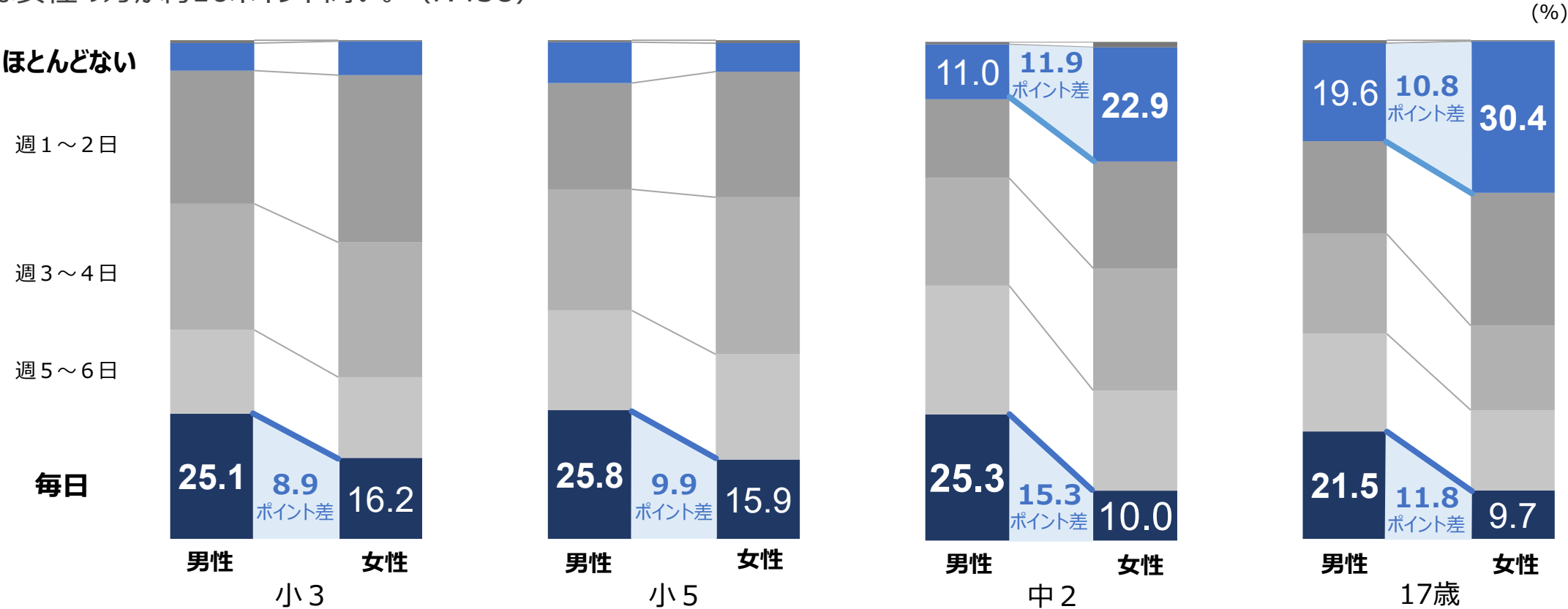
■ 調査結果のポイント（3）－①

男性と女性の差に着目すると、特徴的な結果が見られた。

「週に30分以上遊んだり体を動かしたりする日」についての男女ギャップ

子

いずれの学年でも「毎日」は、男性の方が約10ポイント高い。中2・17歳になると、「ほとんど外で遊んだり体を動かしたりすることはない」は女性の方が約10ポイント高い。（P.458）



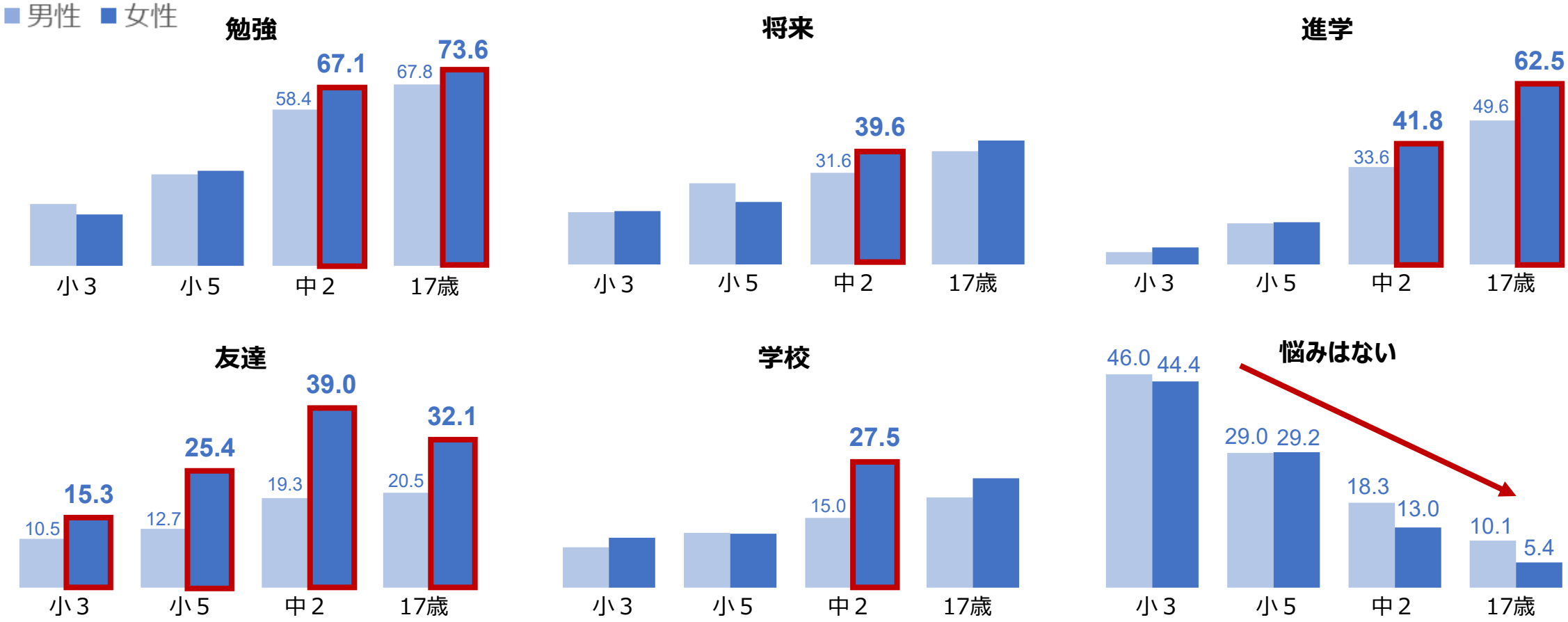
調査結果のポイント（3）－②

「今、悩んでいること」についての男女ギャップ

子

いずれの学年でも「友達」に関する悩みは、女性の方が割合が高い。「悩みはない」は学年が上がるにつれて減少傾向だが、中2・17歳では「勉強」「進学」など、女性の方が様々なことに悩んでいる。（P.477）

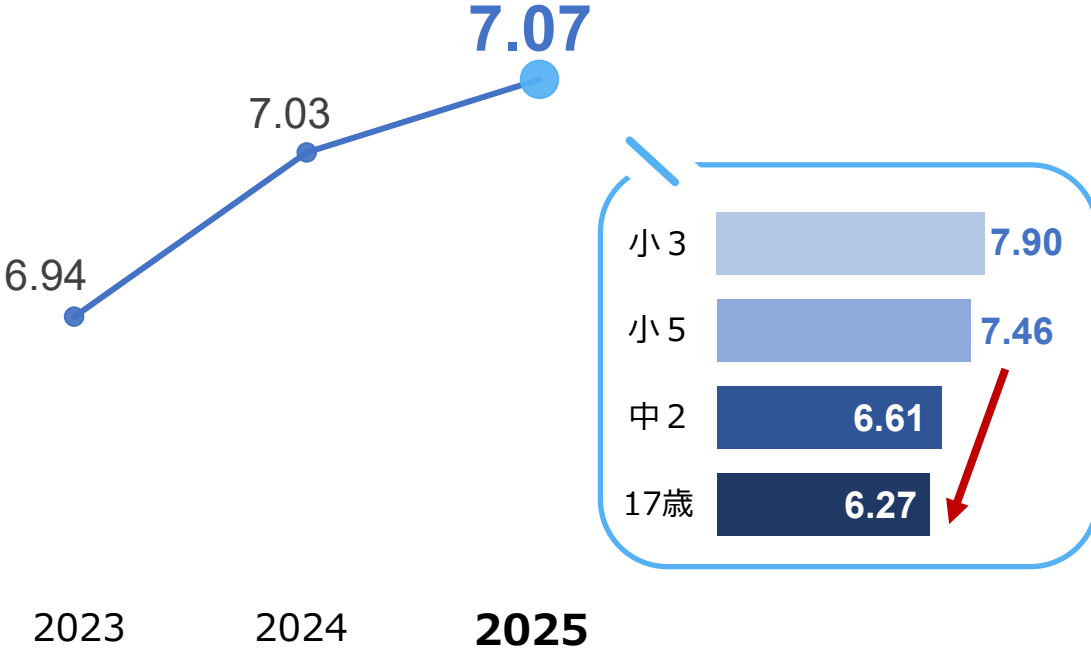
（複数回答）（％）



■ 主な調査結果：子供や保護者の意識

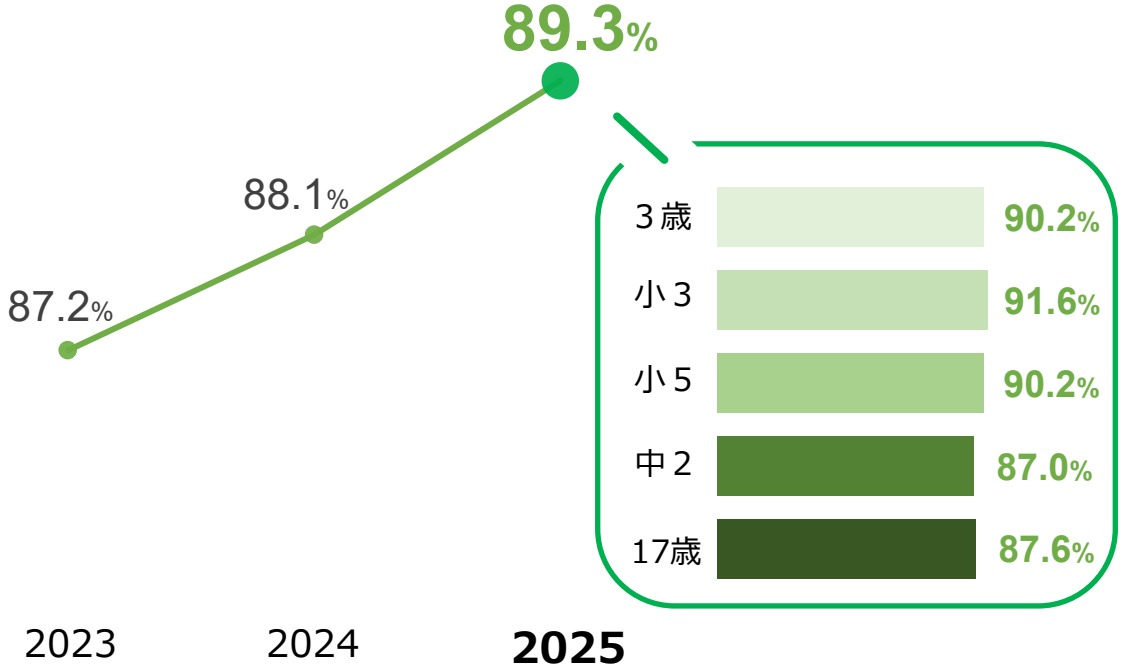
自己肯定感

「今の自分が好きだ」について、
子供全体の平均値は7.07。
学年が上がるにつれて、低下傾向。
(P.114)



子育てに良い場所【保護者】

住む地域は子育てに良い場所だ
と思う（そう思う+どちらかといえばそう思う）保
護者は、いずれの学年でも約 9 割。
(P.374)

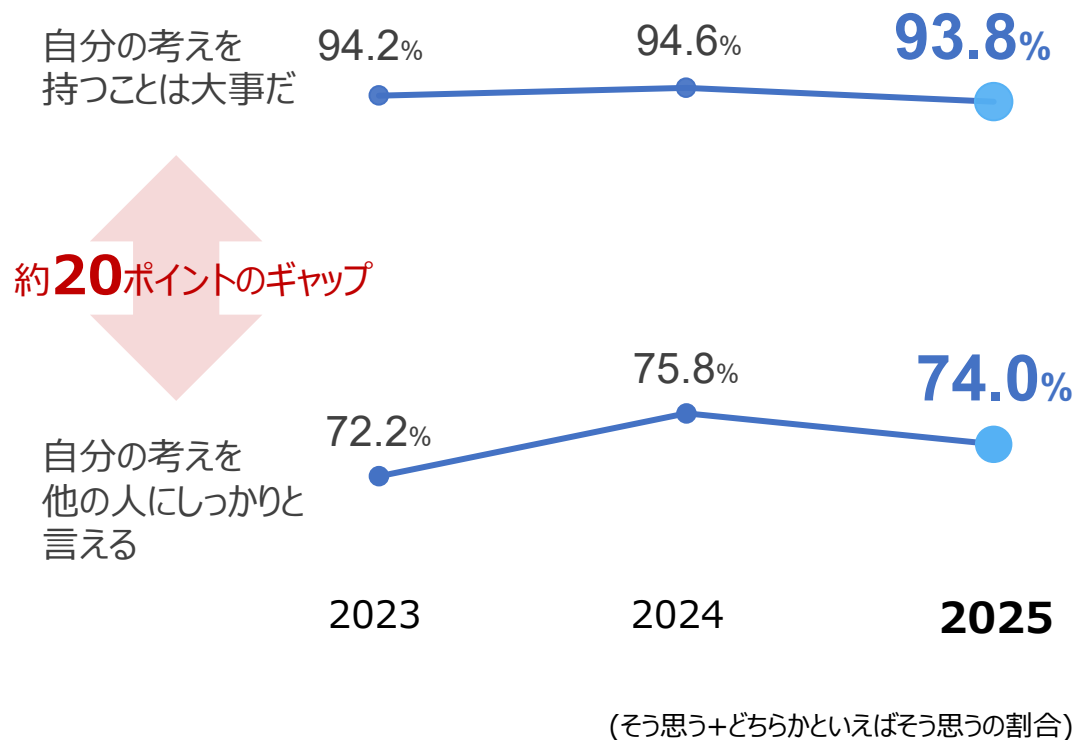


主な調査結果：意見表明

自分の考えを「持つことは大事」と「他の人にしっかりと伝える」との関係

子

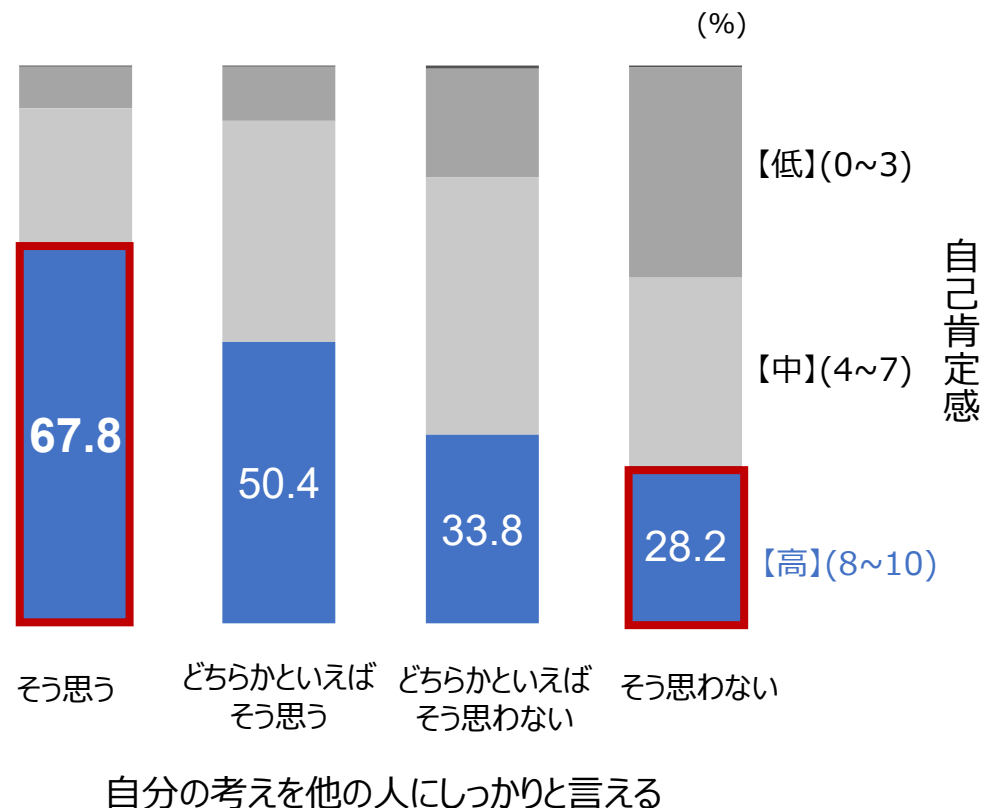
自分の考えを持つことは大事だと思う（そう思う+どちらかといえばそう思う）子供は約9割だが、自分の考えを他の人にしっかりと伝える（そう思う+どちらかといえばそう思う）子供は約7割と、約20ポイントのギャップがある。（P.124,126）



意見表明と自己肯定感との関係

子

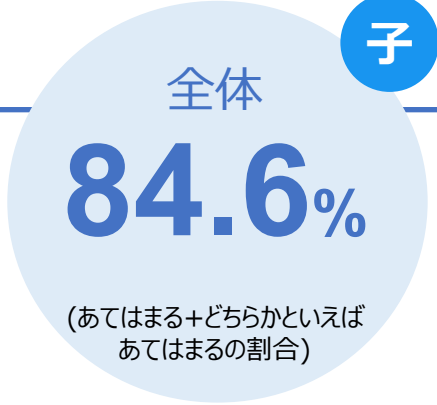
自分の考えを他の人にしっかりと伝える(そう思う)子供は、「今の自分が好きだ（自己肯定感）」に「8」～「10」と回答した割合が約7割。自分の考えを他の人にしっかりと伝えられない(そう思わない)子供では、自己肯定感【高】(8～10)は約3割。（P.480）



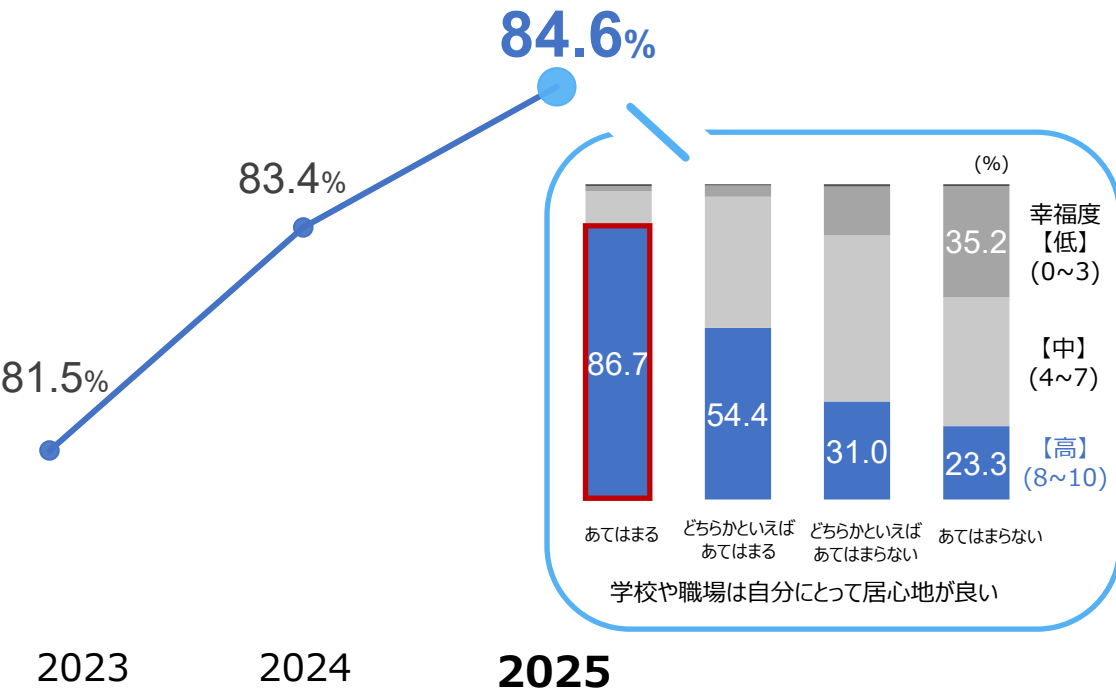
■ 主な調査結果：学校等の居心地

学校や職場の居心地

学校や職場は自分にとって居心地が良い（あてはまる+どちらかといえばあてはまる）と回答した子供は8割以上。居心地が良い（あてはまる）と回答した子供は、幸福度が高い傾向。（P.95,96）



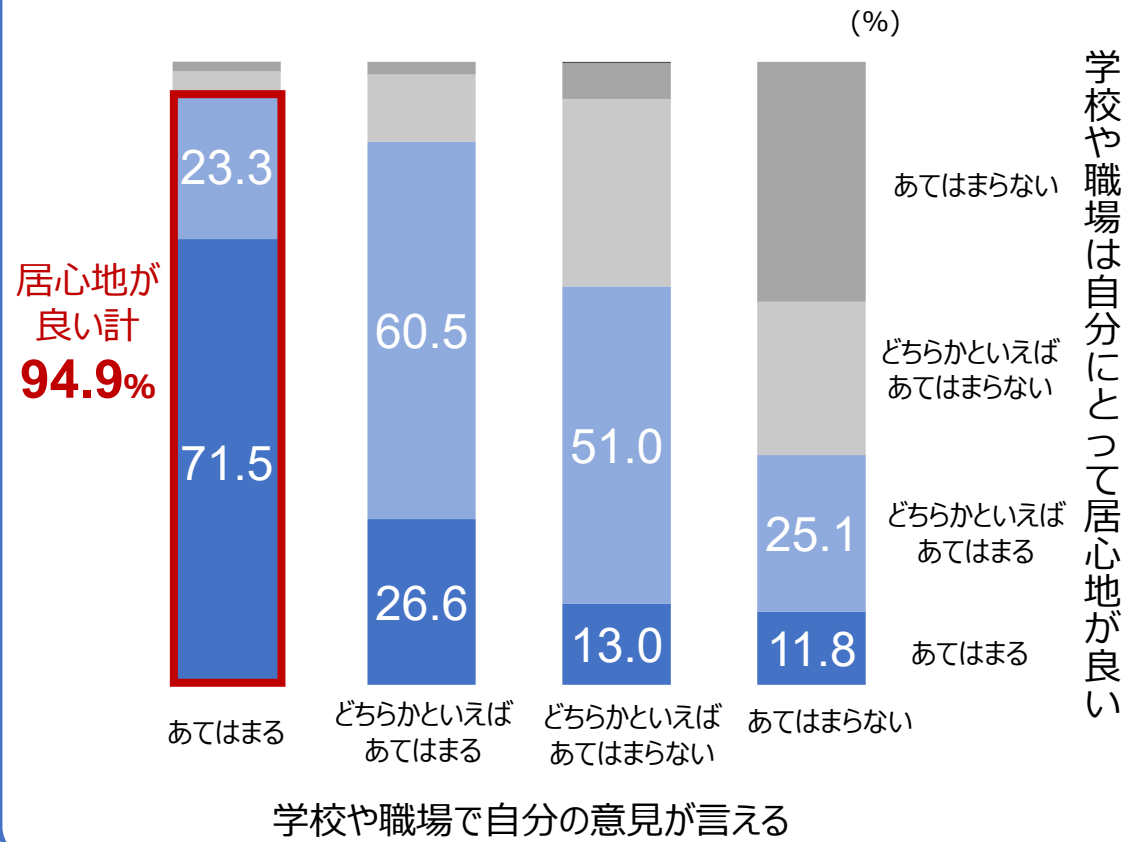
子



意見表明と学校や職場の居心地との関係

子

学校や職場で自分の意見が言える（あてはまる）子供の9割以上が、学校や職場は自分にとって居心地が良い（あてはまる+どちらかといえばあてはまる）と回答。（P.485）

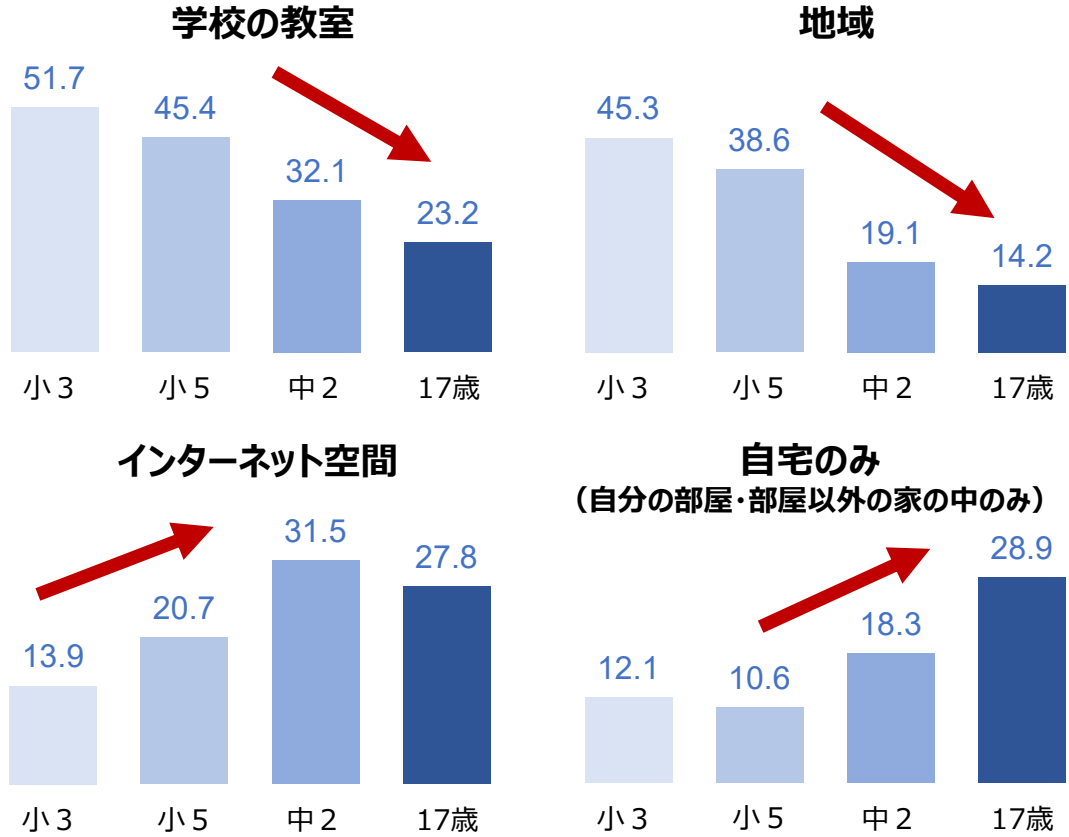


■ 主な調査結果：居場所・地域

居場所(ほっとできる場所・安心できる場所) 子

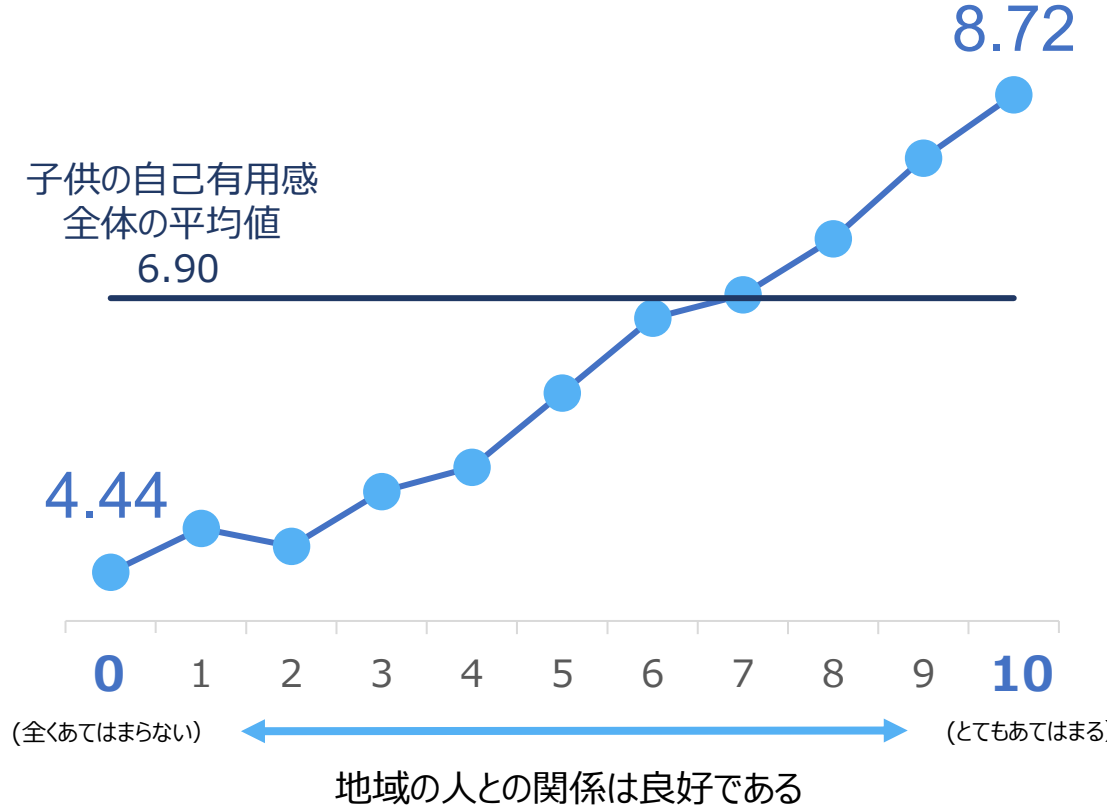
学年が上がるにつれて、「学校の教室」や「地域」を居場所だと思う割合は減る。中2・17歳では「インターネット空間」や「自宅のみ」を居場所だと思う割合が増える。(P.168,173)

(複数回答) (%)



「地域の人との関係」と自己有用感との関係 子

「地域の人との関係は良好である」について、「10」(とてもあてはまる)と回答した子供は、「自分は他人から必要とされている(自己有用感)」について、平均値は8.72。「0」(全くあてはまらない)と回答した子供の自己有用感の平均値は4.44。(P.494)

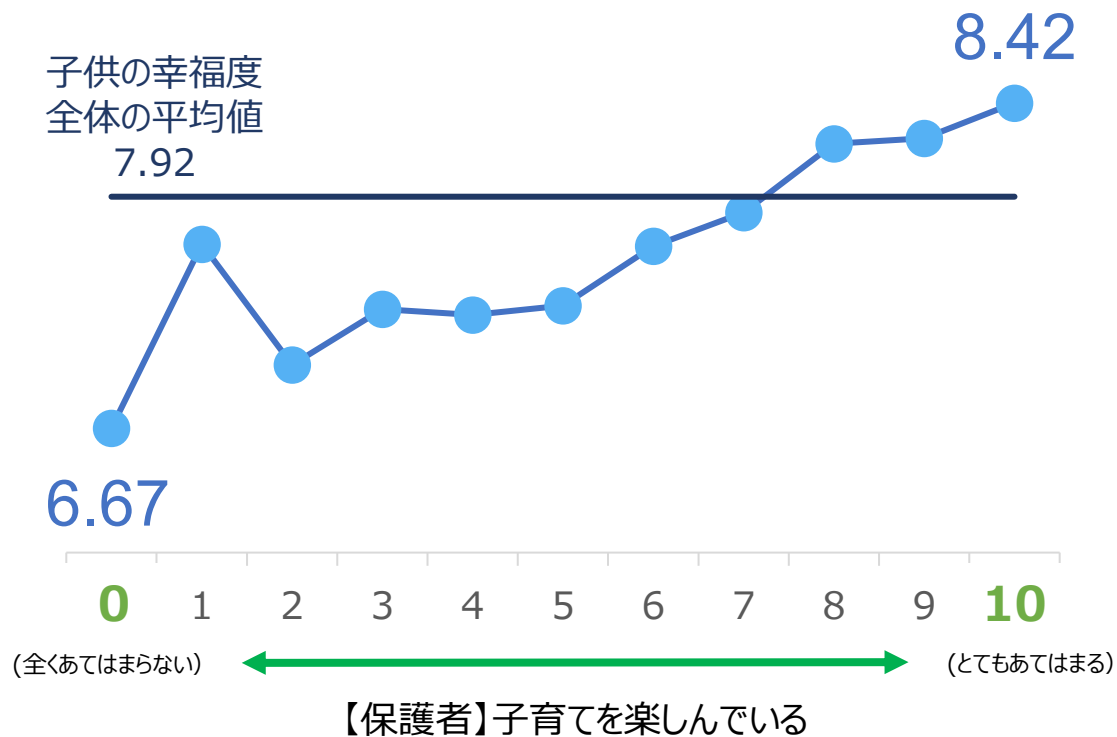


■ 主な調査結果：子育て①

保護者の「子育てを楽しんでいる」と子供の「幸福度」との関係

保 子

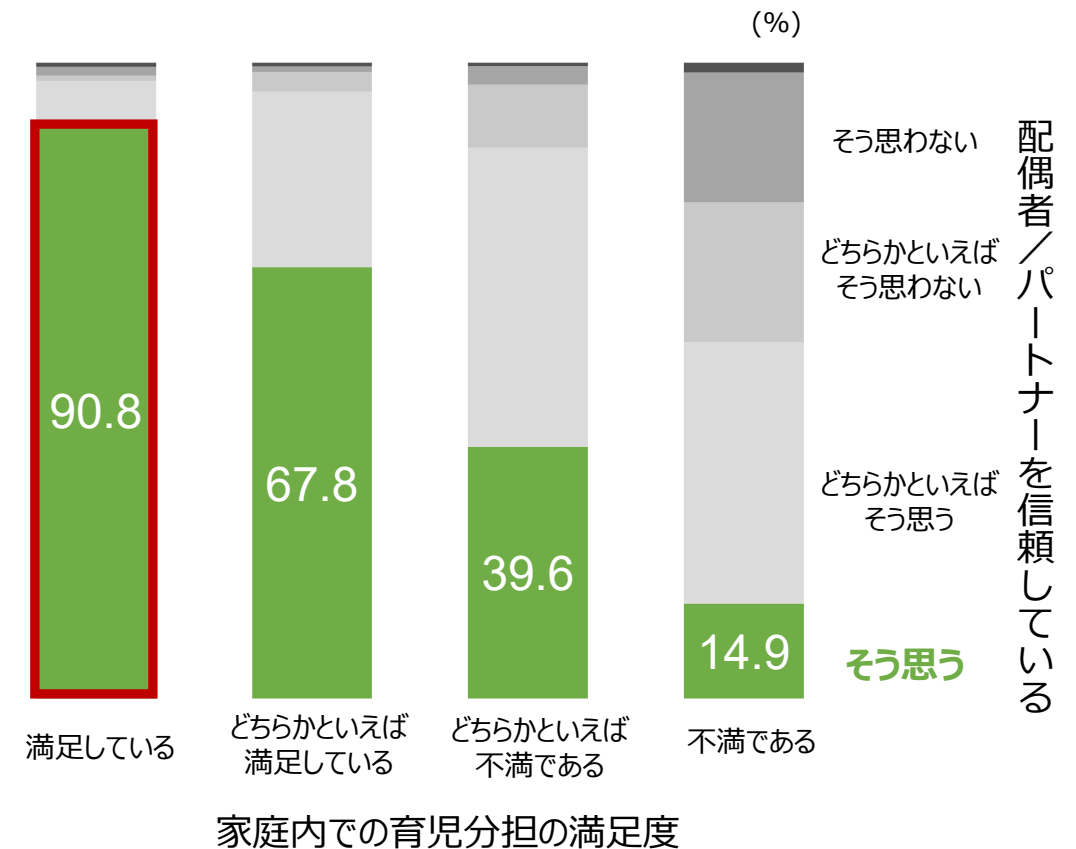
「子育てを楽しんでいる」に「10」（とてもあてはまる）と回答した保護者の子供の幸福度は、平均値が8.42。（P.496）



「家庭内での育児分担の満足度」と「配偶者への信頼」との関係【保護者】

保

家庭内での育児分担に「満足している」と回答した保護者の約9割が、「配偶者/パートナーを信頼している（そう思う）」と回答。（P.502）

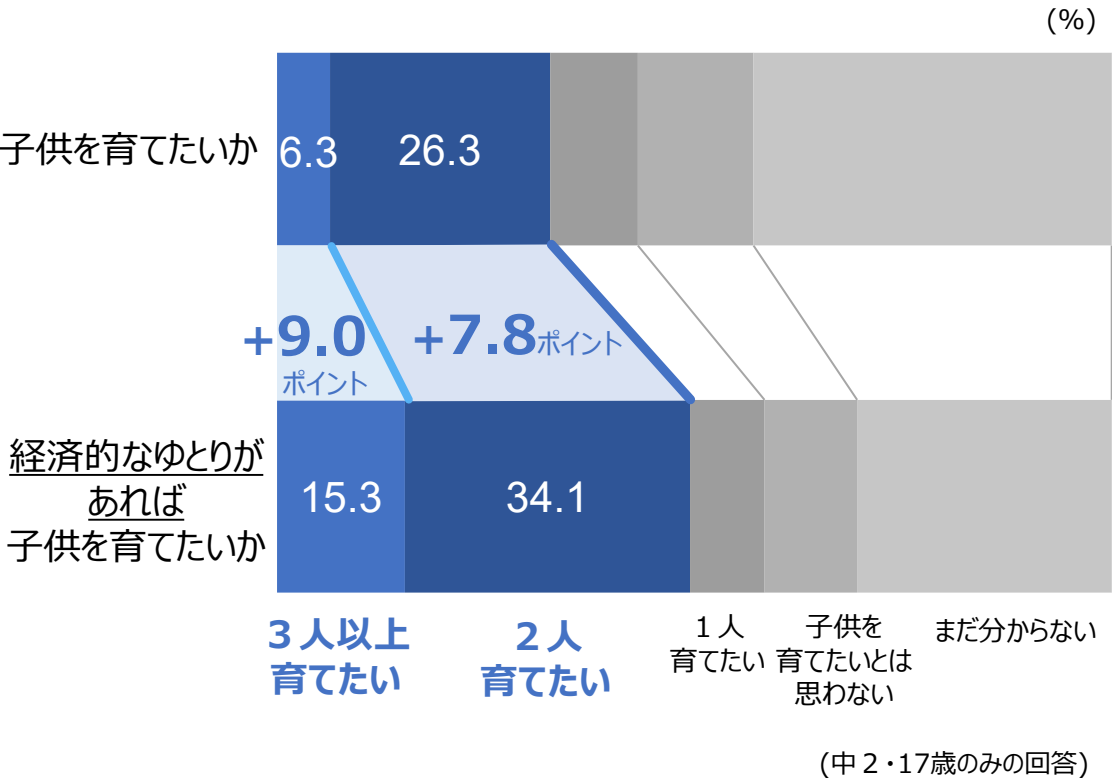


■ 主な調査結果：子育て②

将来、子供を育てたいか

子

「将来、子供を育てたいか」と「将来、経済的にゆとりがあれば子供を何人育てたいか」について、中2・17歳の回答を比較すると、経済的なゆとりがあれば、「3人以上育てたい」「2人育てたい」がそれぞれ10ポイント弱高い。(P.48,50)



家庭における「仕事」の役割分担についての男女ギャップ

子

仕事の役割分担は、中2・17歳共に「男女で同じように担うべき」が最も高いが、女性の方が男性より20ポイント以上高い。「主に男性が担うべき」は男性の方が女性より10ポイント以上高い。(P.473)

